

第 61 回日本リハビリテーション医学会学術集会【印象記】

京都府立医科大学大学院医学研究科リハビリテーション医学 垣田真里

第 61 回日本リハビリテーション医学会学術集会
が、安保雅博会長（日本リハビリテーション医学会
理事長，東京慈恵会医科大学リハビリテーション医
学講座主任教授）のもと 2024 年 6 月 13 日（木）
～16 日（日）の 4 日間にわたり開催されました。「病
気を診ずして病人を診よ」をテーマに，東京・渋谷
のセルリアンタワー東急ホテルを中心として渋谷エ
クセルホテル東急，渋谷ヒカリエ，渋谷区文化総合
センター大和田の 4 施設に 4,000 名以上（参加登録
者数は 5,000 名超）の参加者が全国から集いました。

開会式に続き，日本リハビリテーション医学会
60 周年記念講演会がセルリアンタワー東急ホテル
の第 1 会場で行われました。これまでの日本のリ
ハビリテーション医学・医療の歴史と本医学会の
歩みについて，歴代の理事長・副理事長，関連専門
職協会会長の先生方がそれぞれの立場で語られ，
圧巻でした。また，午後からの会長講演は，最も印
象に残ったものの 1 つでした。語られる言葉の 1
つひとつが希望にあふれていて，拝聴した後になん
だか自身がスッキリし，やる気を奮い立たせてくれ
る講演でした。

教育講演は全 90 講演あり，豊富なラインナップ
でした。講師の先生方は，これまでより年齢が若
く，内容も含めとても新鮮な印象を受けました。シ
ンポジウム・特別シンポジウムは 44 セッションあ
り，内容も多岐にわたっていました。一般口演は，
23 つのカテゴリーのうち脳血管障害が 16 セッシ
ョンと最も多く，次いで運動器疾患が 10，脊髄損傷
が 7 セッションでした。ポスター発表は渋谷ヒカリ
エを会場とし，セッションごとに円陣を組むように
発表が行われていました。質疑応答も盛り上がっ
ており，にぎやかな雰囲気でした。また，今回はこ
れまでと違い指導医講習会が 4 講演と受講する機
会が多く設けられていたのもありがたかったです。
産業医研修会を兼ねた講演は今回初めてでし
たが，どの会場も満席でした。

企業展示は，セルリアンタワー東急ホテル・渋谷
ヒカリエ・渋谷区文化総合センター大和田で行わ
れていました。特にセルリアンタワー東急ホテル・



60 周年記念講演会会場風景



企業展示風景（渋谷ヒカリエ）



全体懇親会風景

渋谷ヒカリエではそれぞれに多くの企業展示があ
り，さまざまな企業の機器や商品を試すことができ
て有意義でした。

今回の学術集会は，開催地が渋谷という前代未
聞の試みで，始まるまでどんな学術集会になるのか
想像もつきませんでした。実際は，予想どおり毎日
1 万歩を超えて歩く体力勝負でしたが，渋谷という
エネルギッシュな街のど真ん中で脳細胞から骨格

筋細胞まで全身が賦活化されていくのが感じられた学術集会でした。このようなすばらしい学術集会を成功裏に終えられたことに祝意を表しますとともに、開催にあたり準備・運営に尽力された関係者の皆様に参加者として厚く御礼を申し上げます。

さて、2025年度の春の学術集会は京都府立医科大学大学院リハビリテーション医学主催で、三上靖夫教授を大会長として2025年6月12日（木）～14日（土）の3日間で開催予定です。会場は国

立京都国際会館、テーマは「精力善用・自他共栄」です。臨床や研究で培った力を活用し、患者のため社会のために還元するという意味です。学術集会は、参加者の研究成果の発表の場であると同時に、知識や技術を充実させる吸収の場でもあります。本学術集会が明日の診療や社会の発展に貢献できることを願い、医局員一同心を込めて準備を進めているところです。多くの方々のご参加をお待ちしております。

第61回日本リハビリテーション医学会学術集会【報告記】

東京慈恵会医科大学附属病院リハビリテーション科 吉田健太郎

2024年6月13日（木）～16日（日）に第61回日本リハビリテーション医学会学術集会を開催いたしました。本学術集会は「病気を診ずして病人を診よ」をテーマに、医師から関連専門職までリハビリテーション医学・医療を担う幅広い分野の先生方に、よく学び楽しんでいただけるような学術集会を目指しました。

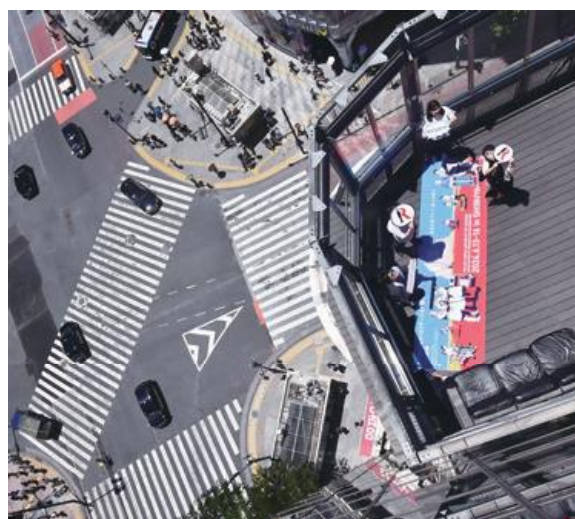
会場については日々再開発にて景色が変わる渋谷で、セルリアンタワー東急ホテルをメイン会場に据え、渋谷エクセルホテル東急、渋谷ヒカリエ、渋谷区文化総合センター大和田と渋谷駅を中心とした複数会場を利用し実施いたしました。移動自体に使用する体力に加え、渋谷の構造上どのルートでアクセスするか非常に頭を使う会場だったと思いますが、日頃病院内の限られた空間で仕事されている皆様にとっては刺激的な会場だったのではないかと思います。

一般演題については1,000題を超える演題登録をいただき、質疑応答時間も従来よりも長めに確保することで連日熱い議論が交わされておりました。教育講演については全国の大学の新進気鋭の若手の先生方や、学術活動で活躍されているコメディカル先生方にも講演いただき大変盛況でした。シンポジウムも44セッション行い、全シンポジウムで提言を出すという新しい取り組みを行いました。そのほかにもモーニングセミナーやイブニングセミナー、アレルギーをお持ちの方へ配慮したランチョンセミナーなどいろいろな取り組みを行い、連日朝から晩まで活気にあふれる学術集会でした。

本学術集会の参加者は、オンデマンド配信を含



医局員集合写真（閉会式）



渋谷スクランブル交差点

め5,373名でした。ご参加いただきました方々および開催にご協力いただきました皆様へ深く感謝申し上げます。